

## II 環境にやさしい農業技術

### 2 生物的防除

#### (1) フェロモン剤利用

昆虫の雌が雄を誘引するために気中に放出する物質（性フェロモン）を製剤化したもの（フェロモン剤）で、別表1に示す製剤が登録されている。

トラップに仕組んで誘引された虫を捕殺する方法（大量誘殺法）と、作物を栽培している所にディスペンサー（フェロモンを放出させるために封入した容器）を置いて微量の性フェロモンを漂わせて虫の交信をかく乱させ、交尾を阻害する方法（交信かく乱法）がある。

#### ア 実施策

##### a 適正規模面積

- ・ 処理面積は数haを必要とするが、それ以下の面積であっても条件によっては使用できる。
- ・ 小面積でも効果がある場合：施設、住宅等に囲まれた場所、性フェロモンが風によって飛散しにくい所。
- ・ 飛翔力が大きいハスモンヨトウの場合、交信かく乱法では70ha以上の処理が必要である。

#### 〈具体的な利用例〉

##### b シロイチモジヨトウのヨトウコンーSによる防除（交信かく乱法）

処理方法は竹棒の先端にフェロモンディスペンサーを取り付け、10a当たり長さ60cmの竹棒30本（ディスペンサー4本を先端に付ける；ディスペンサー120本/10a）をほぼ均一に設置する。設置時期は8月上旬から11月上旬までとする。

伏見区淀では、当初、竹棒60本（ディスペンサー3本を付けた；ディスペンサー180本/10a）を6月下旬から11月上旬まで設置したところ効果が高く、2年目以降下記のように節減できた。

#### 〔伏見区淀での取組概要〕

##### （初年度）

20cmのディスペンサー3本をつけた60cmの竹棒  
60本/10aを6月下旬～11月設置

6 7 8 9 10 11 12 (月)

##### （2年目以降）

20cmのディスペンサー4本をつけた60cmの竹棒  
30本/10aを8月～10月設置

6 7 8 9 10 11 12 (月)

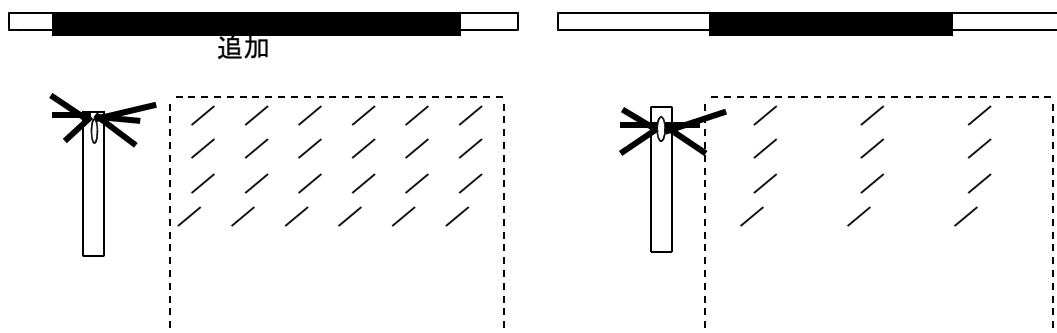


図 ヨトウコンーSのネギほ場での設置

##### c フェロモントラップを利用したハスモンヨトウの広域防除（大量誘殺法）

フェロモントラップは、合成した性フェロモン（フェロディンSL）を入れたトラップを仕掛け、雄成虫を集めて捕らえるもので、数10 ha規模で有効である。生産団地を中心に共同で設置することが望ましい。設置量は1ha当たりトラップ2～4基とする。

##### d ハウスにおけるコナガコンによるコナガ防除（交信かく乱法）

コナガコンをハウスで使用するには、露地栽培のような面積条件の制限はないが、使用条件の厳守が必要である。なお、コナガコンは、オオタバコガにも有効である。

#### ハウスの換気条件

- ・有効成分の流出を防ぐために、肩換気または天窓換気にする（裾換気はダメ）。
- ・夜間の有効成分濃度を高く保つために、夕方には換気部分を必ず閉じる。

#### コナガコンの設置位置

- ・ハウス内の天井に近い位置に設置する。
- ・ハウスのビニール、鉄管部分等に密着しないように注意する。

#### その他注意事項

- ・コナガの発生前または、密度の低い時期に処理すること。
- ・徐々にコナガの密度が高くなる場合には、殺虫剤による体系防除を心がける。

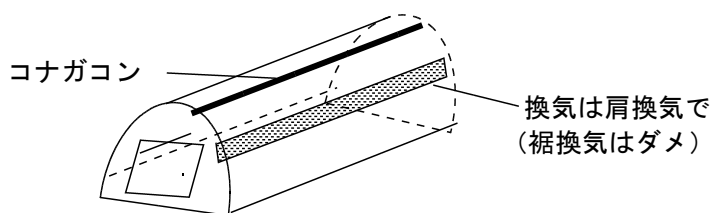


図 ハウスにおけるコナガコンの使用法  
(200m/10aの使用例；ハウスの間口：約5m)

## (2) 天敵利用（天敵昆虫、天敵微生物、天敵線虫など）

天敵の利用法は永続的利用法、周期的放飼、環境条件による天敵の効果増強に大別される。

### ア 永続的利用法

伝統的な生物的防除とも言われる。ある地域に分布していない天敵を他所から導入して放飼し、その天敵が定着、増殖して、以後害虫を抑圧することを期待する。侵入害虫に対しての成功例の多くは、以下の三つの条件に当てはまる。

- ・導入天敵は原産地に産する侵入害虫に特異性が高い種である。
- ・標的害虫は、定着性が高い種である（カイガラムシ等）。
- ・永年作物である果樹や森林の害虫である。

（成功した一例）

イセリアカイガラムシに対するベダリアテントウ

ルビーロイカイガラムシに対するルビーアカヤドリコバチ

ヤノネカイガラムシに対するヤノネキイロコバチ、ヤノネツヤコバチ

### イ 周期的放飼

天敵を増殖し、必要な時期に放飼して害虫を防除することをいう。

〔接種的利用法〕

天敵の密度が低かったり、いないときに、人為的に放飼して次世代以降一定期間有効に作用することを期待する方法。

〔大量放飼法〕

放飼世代、または次世代のみの速効的な効果のみを期待する方法。

大量放飼法は、害虫の加害時期を対象に防除ができることから、殺虫剤に代わる防除手段となる特徴を持っており、生物農薬的利用ともいわれる。現在、市販されている天敵類は別表2に示すとおりであり、農薬取締法に基づく農薬として登録されている。そのほとんどは外国で生産された製品を輸入するものであるが、国内産天敵の実用化も進められている。

### (3) 天敵微生物の利用

近年、害虫を防除する目的で、昆虫に寄生する細菌類やセンチュウ類、ウイルス等を増殖、製剤化し、農薬登録されているものが種々みられるようになった。現在、市販されている微生物農薬は別表3に示すとおりであり、これら薬剤は環境負荷を低減する技術として、今後の効果的な利活用に期待が寄せられている。

### (4) 茶園での薬剤抵抗性天敵の利用

茶園でのカンザワハダニの捕食性天敵であるケナガカブリダニは、多くの薬剤に対して抵抗性を獲得し、慣行防除を行っている茶園でも有効にハダニの密度を抑えている。

この天敵を有効に利用するために（一部の県では放飼を行っている）、在来のケナガカブリダニを利用する方法がある。すなわち、茶の摘採面付近に生息するケナガカブリダニは薬剤散布の影響を受け死亡率が高いが、樹冠内部に薬剤の影響を受けにくい空間が存在するため、その部分では大部分が生き残り、カンザワハダニの密度を抑制できる。

薬剤抵抗性ケナガカブリダニが有効に働いている茶園においては、他の病害虫に対する薬剤散布について、ケナガカブリダニに対する影響を考慮する必要がある。この天敵の利用により、殺ダニ剤の散布回数を大幅に減らすことができる。

### (5) 環境条件による天敵効果増強

天敵の生存や繁殖の条件を改善したり、天敵を誘引し、または定着を促すことによって、天敵密度を上昇させ、天敵の活動を促進したり、有効に作用させるものである。

果樹園のような単純な植物相のところでは、土着の天敵が一般に少ない。このようなところでは、防風林や下草を豊富にして天敵相を増してやると、年間を通じてハダニ類の密度が高まらないで経過することが知られている。

耕種的防除の項で述べる混作、間作との関連が大きいが、天敵を持続的に利用する方法としてのバンカープラント法がある。これには次の要件が満たされる必要がある。

- ・天敵の寄生あるいは餌となる生物をバンカープラントで簡単に増殖できること。
- ・寄主あるいは餌となる生物が栽培されている作物を加害しないこと。
- ・バンカープラントは作物の病原発生源とならないこと。

このような条件を満たすバンカープラントとしてムギ類の効果が大きい。ナス、キュウリ等ではムギを壁として栽培し、天敵を維持するシステムが可能であると考えられる。

一方、ヨーロッパの施設ピーマン栽培では温室内の片隅にムギを数株植え、天敵の利用を図っている。ムギにムギクビレアブラムシを寄生させ、そこに天敵寄生バチを増やすことができる。これは銀行預金が利息を生み出すように、無害のアブラムシを放すことで益虫である天敵を増やし、対象害虫の防除効果を高めることにある。

ソラマメやクローバをほ場周辺に植えておくことで天敵の維持が期待されるが、その他にも、作物や対象の害虫によってバンカープラントの候補作物を揃えておく必要がある。

一方、おとり作物では、害虫が増えすぎたり、作物に害虫が移動して加害して、発生源となってしまう逆効果になる恐れがある。また、多犯性ウイルス（キュウリモザイクウイルス、トマト黄化えそウイルス等）の伝染源植物となる懸念がある。

### (6) 拮抗微生物利用

拮抗微生物を病害防除に利用する試みは古くから行われてきたが、これまで技術として実用化されたものは極めて少なかった。

しかし、近年、これら微生物の製剤化技術が開発され、花き類の難防除病害である根頭がんしゅ病に対する「バクテロース」をはじめとして、種々のものが農薬登録されている。現在、市販されている微生物農薬（病害防除剤）は別表4に示すとおりである。

なお、微生物除草剤も開発され、別表5のとおり農薬登録及び市販されている。

#### (7) 弱毒ウイルス（ワクチン）利用

植物ウイルスは植物に感染すると、ときに矮化や萎ちょう等の激しい症状を示し、収量面で大きな被害を与える。

植物はウイルスに感染すると、2度目からそのウイルスにかかりにくくなる。この性質を干渉作用というが、これを利用して、病原性の弱いウイルス（弱毒ウイルス）を作物に予め接種して、強い病原性を持つウイルスの感染を阻止することで発病を防ぐことができる。

この方法は極めて優れた防除法として実用化されているが、弱毒の安定性、干渉作用の強さと対象が限定される等の改良すべき点がある。

京都府では、紫ずきん及び採種用黒大豆において、ダイズモザイクウイルス弱毒株を利用した予防対策を講じており、各産地農業協同組合を通じて府内の生産者に供給している。

また、府内の露地夏秋キュウリでは、ズッキーニ黄斑モザイクウイルス（ZYMV）の感染による奇形果実と萎ちょう症の被害が大きく、このことも踏まえ弱毒ウイルスの予防接種技術が開発され、世界に先駆けて生物農薬として登録された。

現在、市販されている弱毒ウイルスは別表6に示すとおりである。

別表1 フェロモン剤一覧（平成26年7月1日現在）

作物名	病害虫名	商品名	農薬種類名
野菜類	コナガ	コンフューザーV	アルミゲルア・ウワバリア・ダイアモルア・ビートアーミルア・リトルア剤
	ヨトウガ		
	ハスモンヨトウ		
	シロイチモンジヨトウ		
	タマナギンウワバ		
	イラクサギンウワバ		
	オオタバコガ		
食用さくら(葉)	コスカシハ	スカシバコンL	シナンセルア剤
	コスカシハ雄成虫	スカシバコン	チェリトルア剤
果樹類	チャノコカクモンハマキ	ハマキコン-N	トトリルア剤
		コンフューザーN	オリフルア・トトリルア・ピーチフルア剤N
		コンフューザーMM	オリフルア・トトリルア・ピーチフルア・ヒリマルア剤
	チャハマキ	ハマキコン-N	トトリルア剤
		コンフューザーN	オリフルア・トトリルア・ピーチフルア剤N
	ミダレカクモンハマキ	ハマキコン-N	トトリルア剤
		コンフューザーR	オリフルア・トトリルア・ピーチフルア剤R
		コンフューザーAA	アリマルア・オリフルア・トトリルア・ピーチフルア剤
	リンゴコカクモンハマキ	ハマキコン-N	トトリルア剤
		コンフューザーR	オリフルア・トトリルア・ピーチフルア剤R
		コンフューザーN	オリフルア・トトリルア・ピーチフルア剤N
		コンフューザーMM	オリフルア・トトリルア・ピーチフルア・ヒリマルア剤
		コンフューザーAA	アリマルア・オリフルア・トトリルア・ピーチフルア剤
	リンゴモンハマキ	ハマキコン-N	トトリルア剤
		コンフューザーR	オリフルア・トトリルア・ピーチフルア剤R
		コンフューザーN	オリフルア・トトリルア・ピーチフルア剤N
		コンフューザーAA	アリマルア・オリフルア・トトリルア・ピーチフルア剤
	ナシヒメシンクイ	コンフューザーR	オリフルア・トトリルア・ピーチフルア剤R
		コンフューザーN	オリフルア・トトリルア・ピーチフルア剤N
		コンフューザーMM	オリフルア・トトリルア・ピーチフルア・ヒリマルア剤
		ラブストップヒメシン	オリフルア剤12
		ナシヒメコン	オリフルア剤87.5
		コンフューザーAA	アリマルア・オリフルア・トトリルア・ピーチフルア剤
	モモハモグリガ	コンフューザーMM	オリフルア・トトリルア・ピーチフルア・ヒリマルア剤
	キンモンホリガ	コンフューザーAA	アリマルア・オリフルア・トトリルア・ピーチフルア剤
	コスカシハ	スカシバコンL	シナンセルア剤
コスカシハ雄成虫	スカシバコン	チェリトルア剤	
モモシンクイガ	コンフューザーR	オリフルア・トトリルア・ピーチフルア剤R	
	コンフューザーN	オリフルア・トトリルア・ピーチフルア剤N	
	コンフューザーMM	オリフルア・トトリルア・ピーチフルア・ヒリマルア剤	
	コンフューザーAA	アリマルア・オリフルア・トトリルア・ピーチフルア剤	
モモシンクイガ雄成虫	シンクイコン	ピーチフルア剤	
かき	ヒメコスカシハ	スカシバコンL	シナンセルア剤
	ヒメコスカシハ雄成虫	スカシバコン	チェリトルア剤
	カキノハタムシガ	ハタムシコン	マシニッサルア剤
すもも	スモモヒメシンクイ	コンフューザーN	オリフルア・トトリルア・ピーチフルア剤N
		ナシヒメコン	オリフルア剤87.5
キウイフルーツ	キクビスカシハ	スカシバコンL	シナンセルア剤

作物名	病害虫名	商品名	農薬種類名
花き類・観葉植物	コナガ	コンフューザーV	アルミゲルア・ウワバルア・ダイアモルア・ビートアーミルア・リトルア剤
	ヨトウガ		
	ハスモンヨトウ		
	シロイチモジヨトウ		
	タマナギンウワバ		
	イラクサギンウワバ		
	オオタバコガ		
樹木類	アメリカシロヒト	ニトルアー<アメシロ>	リフォルウェブルア剤
さくら	コスカシバ	スカシバコンL	シナンセルア剤
	コスカシバ雄成虫	スカシバコン	チェリトルア剤
なら類(生立木)	カシナガキクイムシ	カシナガコール	ケルキホルア剤
なら類(伐倒木)	カシナガキクイムシ	カシナガコール	ケルキホルア剤
芝	シバツトガ	コンフューザー-G	ブルウェルア・ロウカルア剤
	スジキリヨトウ		
豆類(種実)	コナガ	コンフューザーV	アルミゲルア・ウワバルア・ダイアモルア・ビートアーミルア・リトルア剤
	ヨトウガ		
	ハスモンヨトウ		
	シロイチモジヨトウ		
	タマナギンウワバ		
	イラクサギンウワバ		
	オオタバコガ		
いも類	コナガ	コンフューザーV	アルミゲルア・ウワバルア・ダイアモルア・ビートアーミルア・リトルア剤
	ヨトウガ		
	ハスモンヨトウ		
	シロイチモジヨトウ		
	タマナギンウワバ		
	イラクサギンウワバ		
	オオタバコガ		
かんしょ	アリモドキゾウムシ	アリモドキコール	MEP・スウィートピルア油剤
		アリモドキコール粒剤	MEP・スウィートピルア粒剤
飼料用さとうきび	イネヨトウ	ヨトウコン-I	インフェルア剤
茶	チャノコカクモンハマキ	ハマキコン-N	トートルア剤
	チャハマキ		
さとうきび	オキナワカンシャクシコメツキ成虫	オキメラノコール	オキメラノルア剤
	サキシマカンシャクシコメツキ成虫	サキシメラノコール	サキシメラノルア剤
	イネヨトウ	ヨトウコン-I	インフェルア剤
いも類、豆類、なす科野菜、あぶらな科野菜、レタス、れんこん、にんじん、ねぎ類、いちご、たばこ、まめ科牧草等	ハスモンヨトウ雄成虫	フェロディンSL	リトルア剤
シロイチモジヨトウが加害する農作物	シロイチモジヨトウ	ヨトウコン-S	ビートアーミルア剤
ハスモンヨトウが加害する農作物	ハスモンヨトウ	ヨトウコン-H	リトルア剤(ヨトウコン-H)
コナガが加害する農作物等	コナガ	コナガコン	ダイアモルア剤

作物名	病害虫名	商品名	農薬種類名
コナガ、オオタバコガが加害する農作物等	コナガ	コナガコン	ダイアモルア剤
	オオタバコガ		
オキナワカンジャクシコメツキが加害する農作物等	オキナワカンジャクシコメツキ	オキメラコン	オキメラノルア剤96.5
コナガ、オオタバコガ、ヨトウガが加害する農作物等	コナガ	コナガコンープラス	アルミゲルア・ダイアモルア剤
	ヨトウガ		
	オオタバコガ		

※登録農薬の最新情報は、必ず下記のホームページ等を参照してください。

独立行政法人 農林水産消費安全技術センター

[http://www.acis.famic.go.jp/index\\_kensaku.htm](http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)

別表2 天敵農薬一覧（平成26年7月1日現在）

商品名	適用作物名	適用害虫名	希釈倍率	使用量	使用時期	使用回数	使用方法
アフィデント	野菜類(施設栽培)	アブラムシ類	-	2瓶(約2000頭)/10a	発生初期	-	放飼
アフィパール	野菜類(施設栽培)	アブラムシ類	-	1~2瓶/10a(約500~1000頭/10a)	発生初期	-	放飼
アブラバチAC	野菜類(施設栽培)	アブラムシ類	-	4~8ボトル/10a(1000~2000頭)	発生初期	-	放飼
アリガタ	野菜類(施設栽培)	アザミウマ類	-	500~2000mL/10a(約500~2000頭)	発生初期	-	放飼
イサパラリ	野菜類(施設栽培)	ハモグリハエ類	-	250頭/10a	発生初期	-	放飼
エルカード	野菜類(施設栽培)	コナジラミ類	-	1箱/10a(約3000頭)	発生初期	-	放飼
エンストリップ	野菜類(施設栽培)、ポインセチア(施設栽培)	コナジラミ類	-	25~30株当り1カート	発生初期	-	放飼
オリスターA	野菜類(施設栽培)	アザミウマ類	-	0.5~2L/10a(約500~2000頭)	発生初期	-	放飼
カゲタロウ	野菜類(施設栽培)	アブラムシ類	-	10~40頭/m <sup>2</sup>	発生初期	-	放飼
	むくげ(施設栽培)	ワタアブラムシ		10~40頭/m <sup>2</sup>			
カブリダニPP	野菜類(施設栽培)、ばら(施設栽培)	ハダニ類	-	3瓶(6000頭/10a)	発生初期	-	放飼
	おうとう(施設栽培)	ナミハダニ		100~200頭/樹			
カメノコス	野菜類(施設栽培)	アブラムシ類	-	0.5~2頭/株	発生初期	-	放飼
キイトップ	なす(施設栽培)	アザミウマ類	-	6~12頭/m <sup>2</sup>	発生初期	-	放飼
ククメリス	野菜類(施設栽培)	アザミウマ類	-	50~100頭/株	発生初期	-	放飼
	ほうれんそう(施設栽培)	ケナガコナダニ		200~400g/10a			
	シクラメン(施設栽培)	アザミウマ類		50~100頭/株			
クリーンサポート	きゅうり	灰色かび病、うどんこ病、ハダニ類	2000倍	100~300L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布
	なす	すすかび病、灰色かび病、うどんこ病、ハダニ類	2000倍				
	トマト	葉かび病、灰色かび病、うどんこ病	2000倍				
	ばら	うどんこ病	2000倍		発生初期	8回以内	
		ハダニ類	2000倍				
	きく	白さび病	2000倍		発生初期		
		ハダニ類	2000倍				
花き類・観葉植物(ばら、きくを除く)	ハダニ類	2000倍					



商品名	適用作物名	適用害虫名	希釈倍率	使用量	使用時期	使用回数	使用方法
コミュバチDS	トマト(施設栽培)、ミニトマト(施設栽培)	マハモグリハエ	-	250～500頭/10a	発生初期	-	放飼
コレトップ	野菜類(施設栽培)	アブラムシ類	-	4～8ボトル/10a (1000～2000頭)	発生初期	-	放飼
コレパバリ	野菜類(施設栽培)	アブラムシ類	-	1000頭/10a	発生初期	-	放飼
サバクトップ	野菜類(施設栽培)	コナジラミ類	-	50～75カート/10a	発生初期	-	放飼
スパイカルEX	野菜類(施設栽培)、豆類(種実)(施設栽培)、いも類(施設栽培)	ハダニ類	-	100～300mL/10a(約2000～6000頭)	発生初期	-	放飼
	果樹類			24～120mL/10樹(約48～240頭/樹)			
	花き類・観葉植物(施設栽培)	100～300mL/10a(約2000～6000頭)					
	茶	200mL/10a(約4000頭)					
スパイカルプラス	果樹類	ハダニ類	-	1～5パック/樹(約50～250頭/樹)	発生初期	-	茎や枝等に吊り下げて放飼
	野菜類(施設栽培)、豆類(種実)(施設栽培)、いも類(施設栽培)、花き類・観葉植物(施設栽培)			40～120パック/10a(約2000～6000頭/10a)			
スパイデックス	野菜類(施設栽培)、豆類(種実)(施設栽培)、いも類(施設栽培)、果樹類(施設栽培)	ハダニ類	-	100～300mL/10a(チリカブリダニ約2000～6000頭)	発生初期	-	放飼
	花き類・観葉植物(施設栽培)			100mL/10a(チリカブリダニ約2000頭)			
スワルスキー	野菜類(施設栽培)、豆類(種実)(施設栽培)、いも類(施設栽培)	アザミウマ類、コナジラミ類、チャノホコリダニ	-	250～500mL/10a(約25000～50000頭/10a)	発生直前～発生初期	-	放飼
	果樹類(施設栽培)	ミカンハダニ		2.5～10mL/樹(約250～1000頭/樹)			
	マンゴー(施設栽培)	チャノキイロアザミウマ		2.5mL/樹(約250頭/樹)			
	花き類・観葉植物(施設栽培)	アザミウマ類		500mL/10a(約50000頭/10a)			
スワルスキープラス	野菜類(施設栽培)、豆類(種実)(施設栽培)、いも類(施設栽培)	アザミウマ類、コナジラミ類、チャノホコリダニ	-	100～200パック/10a(約25,000～50,000頭/10a)	発生直前～発生初期	-	茎や枝等に吊り下げて放飼
	果樹類(施設栽培)	ミカンハダニ		1～4パック/樹(約250～1,000頭/樹)			
	マンゴー(施設栽培)	チャノキイロアザミウマ		1～4パック/樹(約250～1,000頭/樹)			
	花き類・観葉植物(施設栽培)	アザミウマ類		200パック/10a(約50,000頭/10a)			
タイリク	野菜類(施設栽培)	アザミウマ類	-	500～2000mL/10a(約500～2000頭)	発生初期	-	放飼
チャバラ	野菜類(施設栽培)	アブラムシ類	-	2000頭/10a	発生初期	-	放飼
チリガブリ	野菜類(施設栽培)、ばら(施設栽培)	ハダニ類	-	4000～6000頭/10a	発生初期	-	放飼

商品名	適用作物名	適用害虫名	希釈倍率	使用量	使用時期	使用回数	使用方法
チリカ・ワーカー	野菜類(施設栽培)	ハダニ類	-	100～300mL/10a(約2000～6000頭/10a)	発生初期	-	放飼
チリトップ	野菜類(施設栽培)	ハダニ類	-	6000頭/10a	発生初期	-	放飼
ツヤコバチEF30	野菜類(施設栽培)	コナジラミ類	-	10a当り80枚	発生初期	-	放飼
ツヤトップ	野菜類(施設栽培)	オンシツコナジラミ	-	25～30株当たり1カート	発生初期	-	放飼
ツヤトップ25	野菜類(施設栽培)	オンシツコナジラミ	-	25～30株当り2カート	発生初期	-	放飼
ツヤパラリ	野菜類(施設栽培)	コナジラミ類	-	25～50株当たり1カート	発生初期	-	放飼
テントトップ	野菜類(施設栽培)	アブラムシ類	-	10～13頭/m <sup>2</sup>	発生初期	-	放飼
トスパック	野菜類(施設栽培)	アザミウマ類	-	0.5～2L/10a(約500～2000頭)	発生初期	-	放飼
ナミトップ	野菜類(施設栽培)	アブラムシ類	-	0.5～4頭/株	発生初期	-	放飼
ナミトップ20	野菜類(施設栽培)	アブラムシ類	-	0.5～4頭/株	発生初期	-	放飼
ヒメコバチDI	野菜類(施設栽培)	ハモグリハエ類	-	100～200頭/10a	発生初期	-	放飼
ヒメトップ	野菜類(施設栽培)	ハモグリハエ類	-	2～8ボトル/10a(200～800頭)	発生初期	-	放飼
ベミパール	野菜類(施設栽培)	タバココナジラミ類(シルバーアブラムシを含む)	-	25～30株当たり1カート	発生初期	-	放飼
マイネックス	野菜類(施設栽培)	ハモグリハエ類	-	1～2瓶/10a(250～500頭)	発生初期	-	放飼
ミドリヒメ	野菜類(施設栽培)	ハモグリハエ類	-	100頭/10a	発生初期	-	放飼
ミヤコスター	野菜類(施設栽培)	ハダニ類	-	2000頭/10a	発生初期	-	放飼
ミヤコトップ	野菜類(施設栽培)	ハダニ類	-	約2000～6000頭/10a	発生初期	-	放飼
ヨーロツバトビチビアメバチ	れんげ	アルファルファタコゾウムシ	-	放飼地点1ヶ所あたり400～2000頭	れんげ着蕾期	-	放飼
メリトップ	野菜類(施設栽培)	アザミウマ類	-	100頭/株	発生初期	-	放飼
リクトップ	野菜類(施設栽培)	アザミウマ類	-	1,000～3,000頭/10a	発生初期	-	放飼

※登録農薬の最新情報は、必ず下記のホームページ等を参照してください。

独立行政法人 農林水産消費安全技術センター

[http://www.acis.famic.go.jp/index\\_kensaku.htm](http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)

別表3 微生物農薬一覧(害虫防除剤) (平成26年7月1日現在)

商品名	適用作物名	適用害虫名	希釈倍率	使用量	使用時期	使用回数	使用方法	
ゴツツA	野菜類(施設栽培)	コナジラミ類	500~1000倍	100~300L/10a	発生初期	-	散布	
		アブラムシ類	500倍					
バータレック	野菜類(施設栽培)	アブラムシ類	1000倍	150~300L/10a	発生初期	-	散布	
バイオセーフ	芝	シバオサゾウムシ幼虫、タマネヤガ	2億5000万頭(約100g)/10a	500~2000L/10a	発生初期	-	散布	
	かんしょ(茎葉)	アリモドキゾウムシ、イモゾウムシ	2億5000万頭(約100g)/10a		成虫発生初期			
	かんしょ		2億5000万頭(約100g)/10a		老令幼虫発生期			
	野菜類、豆類(種実)、いも類、花き類・観葉植物	ハスモンヨトウ	2億5000万頭(約100g)/10a				夏繭が形成される時期~羽化脱出前まで	土壌灌注
	果樹類	モモシクイガ	2億5000万頭(約100g)/10a					
	さくら	コスカシハ	2500万頭(約10g)	25L	幼虫発生期		-	虫糞が見られる所を中心に主幹部全体に散布
			2500万頭(約10g)					
	なし、りんご	ヒメホクウ	2500万頭(約10g)	2.5L	産卵期~幼虫喰入期		-	木屑排出孔を中心に薬液が滴るまで散布または樹幹注入
	たらのき	センカミキリ幼虫	2500万頭(約10g)					
	いちじく	キホシカミキリ幼虫	2500万頭(約10g)	25L	幼虫発生期		-	主幹及び主枝の産卵箇所薬液が滴るまで塗布又は散布
	ヤシ	ヤシオオサゾウムシ幼虫	7500万頭(約30g)					
	オリーブ、オリーブ(葉)	オリーブアナアキゾウムシ幼虫	2500万頭(約10g)	70~140L	幼虫発生初期		-	樹幹部に薬液が滴るまで散布
花き類・観葉植物	キンケウチフトゾウムシ幼虫	2500万頭(約10g)	70~140L			幼虫発生初期		

商品名	適用作物名	適用害虫名	希釈倍率	使用量	使用時期	使用回数	使用方法		
バイオトピア	芝	コガネムシ類幼虫	12万5000～25万頭(約0.625～1.25g)/m <sup>2</sup>	0.5～2L/m <sup>2</sup>	発生初期	-	散布		
		シバオサゾウムシ幼虫	25万頭(約1.25g)/m <sup>2</sup>						
		タマナヤガ、シバツツガ、スジキリヨトウ	25万頭(約1.25g)/m <sup>2</sup>	1～2L/m <sup>2</sup>					
	かんしょ	コガネムシ類幼虫	25万頭(約1.25g)/m <sup>2</sup>	1株当り0.5～2L(3～12L/m <sup>2</sup> )			発生初期	-	株元灌注
	ブルーベリー	ヒメコガネ幼虫	25万頭(約1.25g)/m <sup>2</sup>	0.5～2L/m <sup>2</sup>					株元散布
	ハスカップ	ナガチャコガネ幼虫	25万頭(約1.25g)/m <sup>2</sup>				土壌表面散布		
	野菜類、豆類(種実)、いも類	ネキリムシ類	25万頭(約1.25g)/m <sup>2</sup>				老齢幼虫発生期	株元散布	
いちご	ハスモンヨトウ	25万頭(約1.25g)/m <sup>2</sup>							
バイオリサ・カミキリ	果樹類	カミキリムシ類	-	1樹当り1本	成虫発生初期	-	地際に近い主幹の分枝部分等に架ける		
	桑	キホシカミキリ		1樹当り1本					
	かえで	コマダラカミキリ		1樹当り1本					
	うど、たらのき	センノカミキリ		2樹当り1本					
	しいたけ	ハラアコブカミキリ		ほだ木10本当り1本	産卵期および成虫発生初期		ほだ木上に架ける		
バイリサ・マダラ	まつ(枯損木)	マツノマダラカミキリ	-	枯損木1m <sup>3</sup> 当り不織布製剤2,500cm <sup>2</sup> から10,000cm <sup>2</sup>	成虫羽化脱出前	-	伐倒、集材した枯損木に所定量の不織布製剤を設置し、ビニールシート等で被覆する		
パストリア水和剤	野菜類、いも類	ネコブセンチュウ	1～5kg/10a	150～200L/10a	定植前	-	土壌表面に散布し混和		
	いちじく		1～5kg/10a						
				1～5kg/10a			300L/10a	生育期	土壌表面に散布
ハスモンキラー	だいず、えだまめ、しそ、いちご、バジル、レタス、つるむらさき	ハスモンヨトウ	1000倍	100～300L/10a	幼虫発生初期	-	散布		
ハスモン天敵	キャベツ	ハスモンヨトウ	1000倍	100～500L/10a	発生初期	-	散布		
	いちご、しそ、しそ(花穂)、レタス		1000～2000倍						
	アスパラガス、食用ぎく、きく(葉)、つるむらさき		2000倍						
			1000～2000倍						
	だいず、えだまめ		8倍	0.8L/10a			無人ヘリコプターによる散布		

商品名	適用作物名	適用害虫名	希釈倍率	使用量	使用時期	使用回数	使用方法
ハマキ天敵	りんご	リンゴコカクモンハマキ	1000倍	-	発生初期	-	散布
	茶	チャハマキ、チャノコカクモンハマキ	1000～2000倍		発生初期、 但し、摘採 前日まで		
プリファード水和剤	野菜類(施設栽培)	コナジラミ類、ワタアブラムシ	1000倍	200～ 300L/10a	発生初期	-	散布
ポタニガードES	マンゴー	チャノキイロアザミウマ	1000倍	200～ 700L/10a	発生初期	-	散布
	野菜類	アザミウマ類	500～1000倍	100～ 300L/10a			
		アブラムシ類	1000倍				
		コナジラミ類、コナガ	500倍				
	キャベツ	アオムシ	500倍	100～ 300L/10a			
	レタス	オオタバコガ	500倍				
	トマト、ミニトマト	コナジラミ類	500～2000倍				
茶	クワシロカイガラムシ	500倍	1000L/10a				
ポタニガード水和剤	野菜類(施設栽培)	コナジラミ類、アザミウマ類	1000倍	100～ 300L/10a	発生初期	-	散布
ポーベリアン	まつ(枯損木)	マツノマダラカミキリ	枯損木1m3当り 不織布製剤 2,500cm <sup>2</sup> から 10,000cm <sup>2</sup>	-	成虫羽化 脱出前	-	伐倒、集材した 枯損木に所定 量の不織布製 剤を設置し、ビ ニールシート等 で被覆する
マイコタール	野菜類(施設栽培)	コナジラミ類	1000倍	150～ 300L/10a	発生初期	-	散布
	マンゴー(施設栽培)	チャノキイロアザミウマ	1000倍	200～ 700L/10a			
	きく(施設栽培)、トルコギキョウ(施設栽培)	ミカンキイロアザミウマ	1000倍	150～ 300L/10a			

※登録農薬の最新情報は、必ず下記のホームページ等を参照してください。

独立行政法人 農林水産消費安全技術センター

[http://www.acis.famic.go.jp/index\\_kensaku.htm](http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)

別表4 微生物農薬一覧(病害防除剤) (平成26年7月1日現在)

商品名	適用作物名	適用病害名	希釈倍率 又は使用量	使用液量	使用時期	使用回数	使用方法			
アグロケア水 和剤	かんきつ	灰色かび病	1000～2000倍	200～ 700L/10a	収穫前日まで	-	散布			
	なし	黒星病	1000～2000倍							
	野菜類(トマト、ミニ トマト、ピーマン、ほう れんそう、食用ゆり、セル リー、なす、にら、パセリ、しそを 除く)	灰色かび病、うどん こ病	1000～2000倍	100～ 300L/10a						
			1000～2000倍							
	トマト	葉かび病	1000倍							
		ミニトマト	灰色かび病、うどん こ病					1000～2000倍		
	葉かび病		1000倍							
	斑点病		2000倍							
	ピーマン	黒枯病	2000倍							
		灰色かび病、うどん こ病	1000～2000倍							
	ほうれんそう		1000～2000倍							
		白斑病	2000倍							
	食用ゆり	灰色かび病、うどん こ病	1000～2000倍							
		葉枯病	1000倍							
	パセリ、しそ	灰色かび病、うどん こ病	1000～2000倍							
		斑点病	2000倍							
	セルリー	灰色かび病、うどん こ病、斑点病	1000～2000倍							
	なす	灰色かび病、うどん こ病	1000～2000倍	100～ 300L/10a	収穫前日まで	-	散布			
		すすかび病	2000倍							
	にら	灰色かび病、うどん こ病	1000～2000倍							
白斑葉枯病		2000倍								
花き類・観葉植物 (ばらを除く)	うどんこ病	1000倍								
		1000～2000倍								
ばら				発病前～発病 初期						
インプレッション ンクリア	野菜類、豆類(種 実)、いも類	うどんこ病、灰色 かび病	1000～2000倍	100～ 300L/10a				発病前から発 病初期まで	-	散布

商品名	適用作物名	適用病害名	希釈倍率 又は使用量	使用液量	使用時期	使用回数	使用方法	
インプレッション 水和剤	野菜類、豆類(種 実)、いも類	うどんこ病、灰色 かび病	500倍	-	発病前から発 病初期まで	-	散布(上澄液)	
			500~1000倍					
	トマト、ミニトマト	葉かび病	500倍				散布	
	ししとう	黒枯病	500倍					
	食用ゆり	葉枯病	500倍					
	にら	白斑葉枯病	500倍				散布(上澄液)	
			500倍					
	からしな(種子)	うどんこ病、灰色 かび病	500倍				散布	
			500~1000倍					
	かぼちゃ	うどんこ病	16倍				無人ヘリコプターによ る散布	
	ホップ		1000倍					
		ぶどう、ハスカップ	灰色かび病				500~1000倍	散布
	500倍							
	もも、ネクタリン	灰星病	500倍					
	おうとう、すもも		500倍					
			500倍				散布(上澄液)	
ブルーベリー	斑点病	500倍	散布					
いちご	うどんこ病	2000倍						
エコショット	野菜類	灰色かび病	1000~2000倍	100~ 300L/10a	収穫前日まで	-	散布	
	トマト、ミニトマト	葉かび病	1000~2000倍					
	セルリー、パセリ、 しそ	斑点病	2000倍					
	にら	白斑葉枯病	2000倍					
	ぶどう	うどんこ病	2000倍	200~ 700L/10a	開花期~落弁 期			
			1000~2000倍					
	かんきつ	灰色かび病	1000~2000倍	200~ 700L/10a	収穫前日まで			
	ブルーベリー、ハ スカップ	2000倍						
	なし	黒星病、黒斑病	2000倍	100~ 180L/10a	収穫3日前ま で			2回以内
	おうとう	灰星病	1000倍					
	あんず	かいよう病	1000倍					
	たばこ	灰色かび病	1000倍	100~ 180L/10a	収穫3日前ま で			2回以内

商品名	適用作物名	適用病害名	希釈倍率 又は使用量	使用液量	使用時期	使用回数	使用方法
エコホープ	稲(箱育苗)	ばか苗病	50倍	-	は種時覆土前	-	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱当り100mLを散布
		もみ枯細菌病	200倍				育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱当り500mLを散布
	稲	ばか苗病、もみ枯細菌病、苗立枯細菌病、いもち病、苗立枯病(リゾプス菌)、ごま葉枯病	200倍		浸種前～催芽前		24～48時間種子浸漬
			200倍		催芽時		24時間種子浸漬
エコホープドライ	稲	ばか苗病	50倍	-	は種時覆土前	-	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱当り100mLを散布
			200倍				
		もみ枯細菌病、苗立枯細菌病、いもち病、苗立枯病(リゾプス菌)	200倍		催芽時		24時間種子浸漬
		ばか苗病、もみ枯細菌病、苗立枯細菌病、いもち病、苗立枯病(リゾプス菌)	200倍				
エコホープDJ	稲	ばか苗病、もみ枯細菌病、苗立枯細菌病、褐条病	200倍	-	浸種前～催芽前	-	24～48時間種子浸漬
			200倍		催芽時		24時間種子浸漬
		いもち病、苗立枯病(リゾプス菌)	200倍		浸種前～催芽時		
	アスパラガス	紫紋羽病	500倍		収穫前日まで		3L/㎡土壌灌注
	たばこ	白絹病	500倍				2回以内
エコメイト	野菜類	軟腐病	500～2000倍	150～300L/10a	発病前～発病初期	-	散布
	シクラメン		1000倍				
	ばれいしよ		1000～2000倍				
			16倍				
	かんきつ	かいよう病	1000倍	200～700L/10a			散布



商品名	適用作物名	適用病害名	希釈倍率 又は使用量	使用液量	使用時期	使用回数	使用方法
家庭園芸用インプレッション水和剤	野菜類、いも類	うどんこ病、灰色かび病	500倍	-	発病前から発病初期まで	-	散布
	トマト、ミニトマト	葉かび病	500倍				
	にら	白斑葉枯病	500倍				
	ししとう	黒枯病	500倍				
	食用ゆり	葉枯病	500倍				
	ぶどう	灰色かび病	500倍				
	もも、ネクタリン、おうとう、すもも	灰星病	500倍				
	ブルーベリー	斑点病	500倍				
クリーンカップ	野菜類	灰色かび病	1000倍	100～300L/10a	収穫前日まで	-	散布
		うどんこ病	1000～2000倍				
	トマト、ミニトマト	疫病、すすかび病	1000倍				
		葉かび病	1000～2000倍				
	きゅうり	べと病、褐斑病	1000倍				
		斑点細菌病	2000倍				
	にんじん	黒葉枯病	1000倍				
クリーンフルピカ	きゅうり	うどんこ病	2000倍	100～300L/10a	収穫前日まで	4回以内	散布
ケミヘル	野菜類	灰色かび病	1000倍	100～300L/10a	収穫前日まで	-	散布
		うどんこ病	1000～2000倍				
	トマト、ミニトマト	疫病、すすかび病	1000倍				
		葉かび病	1000～2000倍				
	きゅうり	べと病、褐斑病	1000倍				
		斑点細菌病	2000倍				
	にんじん	黒葉枯病	1000倍				

商品名	適用作物名	適用病害名	希釈倍率 又は使用量	使用液量	使用時期	使用回数	使用方法					
セレナーデ水 和剤	野菜類、豆類(種 実)、いも類	うどんこ病、灰色 かび病	500倍	-	発病前から発 病初期まで	-	散布(上澄液)					
			500~1000倍				散布					
	いちご	うどんこ病	2000倍					-	-	-	-	
	トマト、ミニトマト	葉かび病	500倍									
	ししとう	黒枯病	500倍									
	食用ゆり	葉枯病	500倍									
	にら	白斑葉枯病	500倍									
			500倍									
	からしな(種子)	うどんこ病、灰色 かび病	500倍									
			500~1000倍									
	かぼちゃ	うどんこ病	16倍									3.2L/10a
	ホップ	-	1000倍									-
			500~1000倍									
	ぶどう、ハスカップ	灰色かび病	500倍									
	もも、ネクタリン	-	500倍									
	おうとう、すもも	灰星病	500倍									
500倍												
ブルーベリー	斑点病	500倍										
タフパール	野菜類	うどんこ病	2000~4000倍	150~ 300L/10a	発病前~発病 初期	-	散布					
	なす	すすかび病	2000~4000倍		-							
	いちご	炭疽病	2000~4000倍					育苗期~収穫 前日まで				
	トマト、ミニトマト	葉かび病、灰色か び病	2000~4000倍					発病前~発病 初期				

商品名	適用作物名	適用病害名	希釈倍率 又は使用量	使用液量	使用時期	使用回数	使用方法	
タフブロック	稲	褐条病、ばか苗病、いもち病、苗立枯細菌病、もみ枯細菌病	200倍	-	催芽時	-	24時間種子浸漬	
		ばか苗病、いもち病、苗立枯細菌病、もみ枯細菌病	200倍		催芽前		24～48時間種子浸漬	
			種子重量の2～4%		浸種前		湿粉衣	
		苗立枯病(フザリウム菌)、苗立枯病(リゾプス菌)、苗立枯病(トリコデルマ菌)	200倍		催芽時		24時間種子浸漬	
			200倍		催芽前		24～48時間種子浸漬	
		種子重量の4%	浸種前		湿粉衣			
		ばか苗病、いもち病、苗立枯細菌病、もみ枯細菌病	20倍		浸種前～催芽前		1時間種子浸漬	
	苗立枯病(フザリウム菌)、苗立枯病(リゾプス菌)、苗立枯病(トリコデルマ菌)	20倍	浸種前					
稲(箱育苗)	苗立枯病(リゾプス菌)	200倍	は種時覆土前	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱当り希釈液200mLを土壌灌注する。				
タフブロックSP	稲	いもち病、ばか苗病、苗立枯細菌病、もみ枯細菌病、苗立枯病(リゾプス菌)、苗立枯病(トリコデルマ菌)、苗立枯病(フザリウム菌)	7.5倍	乾燥種粒1kg当り30mL	浸種前	-	種子吹き付け処理(種子消毒機使用)又は種子塗沫処理	
			4倍	乾燥種粒1kg当り20mL				
			50倍	-			10～60分間種子浸漬	
バイオキーパー水和剤	野菜類	軟腐病	500～2000倍	150～300L/10a	発病前～発病初期	-	散布	
	シクラメン		1000倍					
	ばれいしょ		1000～2000倍				3.2L/10a	無人ヘリコプターによる散布
			16倍					散布
かんきつ	かいよう病	1000倍	200～700L/10a			散布		
バイオワーク水和剤	野菜類(トマト、ミニトマトを除く)	うどんこ病、灰色かび病	1000倍	100～300L/10a	発病前～発病初期	-	散布	
	トマト、ミニトマト	うどんこ病、灰色かび病、葉かび病	1000倍					

商品名	適用作物名	適用病害名	希釈倍率 又は使用量	使用液量	使用時期	使用回数	使用方法
バクテローズ	果樹類 (りんごを除く)	根頭がんしゅ病	20倍	-	移植時又は定植時	-	苗の根部を希釈液に1時間浸漬する。
	りんご		20倍		挿し木時		挿し穂基部を希釈液に10分～60分間浸漬する
			20倍				移植時又は定植時
	ばら		20～50倍		挿し芽時又は定植時		挿し芽苗又は定植苗の根部を希釈液に1時間浸漬する。
	きく		20倍				
パチスター水和剤	かんきつ	灰色かび病	1000倍	200～700L/10a	発病前～発病初期	-	散布
	マンゴー	灰色かび病、軸腐病	1000倍				
	野菜類(トマト、ミニトマトを除く)	うどんこ病、灰色かび病	1000倍	100～300L/10a			
	トマト、ミニトマト	うどんこ病、灰色かび病、葉かび病	1000倍				
	花き類・観葉植物	うどんこ病	1000倍				
フィールドキーパー水和剤	はくさい	根こぶ病	200倍	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(30×60cm、使用土壌約2.5～5L)当り2L	は種直後	1回	灌注
			200倍				
			200倍	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(30×60cm、使用土壌約2.5～5L)当り1L	は種直後及び定植前日～当日	2回	
	キャベツ、ブロッコリー		200倍	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(30×60cm、使用土壌約2.5～5L)当り2L	は種直後	1回	
			200倍				
			200倍	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(30×60cm、使用土壌約2.5～5L)当り2L	は種直後及び定植前日～当日	2回	
ベジキーパー水和剤	レタス、非結球レタス	腐敗病	1000倍	100～300L/10a	発病前～発病初期	-	散布
	キャベツ、はくさい	黒腐病	1000倍				
	ブロッコリー	黒腐病、花蕾腐敗病	1000倍				

商品名	適用作物名	適用病害名	希釈倍率 又は使用量	使用液量	使用時期	使用回数	使用方法
ボトキラー水和剤	野菜類	灰色かび病、うどんこ病	1000倍	150～300L/10a	発病前～発病初期	-	散布
	ぶどう	灰色かび病	1000倍	200～700L/10a			
	かんきつ、マンゴー		1000倍		開花期～幼果期		
	なし	黒星病	1000倍		発病前～発病初期		
	稲	いもち病	1000倍	200～300L/10a	穂ばらみ期～刈取前		
	野菜類	灰色かび病	300g/10a	6～10L/10a	発病前～発病初期		
ボトピカ水和剤	野菜類	うどんこ病	15g/10a/日	-	発病前～発病初期	-	ダケ外内投入
	野菜類	灰色かび病	10～15g/10a/日				
			10g/10a/日				
	マンゴー	10g/10a/日					
	かんきつ、ぶどう	15g/10a/日					
花き類・観葉植物	10～15g/10a/日						
ボトピカ水和剤	野菜類	灰色かび病	2000～4000倍	100～300L/10a	発病前～発病初期まで	-	散布
	いちご、ピーマン	うどんこ病	2000～4000倍				
	にら	白斑葉枯病	2000～4000倍				
マスタピース水和剤	ばれいしょ、野菜類	軟腐病	1000～2000倍	100～300L/10a	発病前～発病初期	-	散布
	かんきつ	かいよう病	1000～2000倍	200～700L/10a			
	もも、ネクタリン	せん孔細菌病	1000～2000倍				
	マンゴー	枝枯細菌病	2000倍				
ミニタンWG	キャベツ、レタス	菌核病	800g/10a	100L/10a	定植前	-	全面散布土壌混和
	にんにく	黒腐菌核病	800g/10a		植付前		
モミホープ水和剤	稲	もみ枯細菌病、苗立枯細菌病	200倍	-	浸種前～催芽時	-	24時間種子浸漬
			乾燥種子重量の1%		浸種前		種子粉衣(湿粉衣)

※登録農薬の最新情報は、必ず下記のホームページ等を参照してください。

独立行政法人 農林水産消費安全技術センター

[http://www.acis.famic.go.jp/index\\_kensaku.htm](http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)

別表5 微生物農薬一覧(除草剤) (平成26年7月1日現在)

商品名	適用作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用薬量	希釈水量	使用回数	使用方法	適用地帯
タスマート	移植水稻	ヒエ	ヒエ1葉期 ～2葉期	壤土～埴土	包装① 500g/10a及 び包装② 600g/10a	5L/10a	1回	湛水土壌散 布	北海道、東 北、北陸
			ヒエ発生始 期～ヒエ 1.5葉期		包装① 500g/10a及 び包装② 600g/10a				関東・東山・ 東海、近畿・ 中国・四国 の普通期栽 培地帯

※登録農薬の最新情報は、必ず下記のホームページ等を参照してください。

独立行政法人 農林水産消費安全技術センター

[http://www.acis.famic.go.jp/index\\_kensaku.htm](http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)

別表6 弱毒ウイルス製剤一覧（平成26年7月1日現在）

商品名	適用作物名	適用病害名	使用時期	使用回数	使用時期
“京都微研” キュービオZY -02	きゅうり	スッキーニ黄斑モザイクウイルスの感染によるモザイク症及び萎凋症	穂木の子葉完全展開期又は接木苗の第1本葉完全展開期	1回	本剤の入っている容器に水を加え5倍希釈液とし、固形物を完全に溶解した後、広口の容器に全量を移し、最終的に25倍希釈液とする。この希釈液に添付のカーボランダムを加えてよく混ぜながら綿棒などを使って展開した一対の子葉又は第1本葉の全面に有傷接種する。
グリーンペーパー PM	ピーマン、とうがらし類	トウガラシマイルドモットルウイルスによるモザイク病	育苗期	1回	本剤の入っている容器に水を加え5倍希釈液とし、固形物を完全に溶解した後、広口の容器に全量を移し、最終的に25倍希釈液とする。この希釈液に添付のカーボランダムを加えてよく混ぜながら綿棒などを使って展開した一対の子葉の全面に有傷接種する。
					本剤の入っている容器に水を加え5倍希釈液とし、固形物を完全に溶解した後、広口の容器に全量を移し、最終的に25倍希釈液とする。この希釈液に添付のカーボランダムを加えてよく混ぜながら綿棒などを使って本葉1～4葉期の完全展開した上位2葉の全面に有傷接種する。

※登録農薬の最新情報は、必ず下記のホームページ等を参照してください。

独立行政法人 農林水産消費安全技術センター

[http://www.acis.famic.go.jp/index\\_kensaku.htm](http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)